

小清水町の人口は4,500人、近隣に都市がないため町内および近隣在住者からの農作業人材確保は困難なことから「まちに人を呼び込む」対策として、農作業支援事業とともに町内在住者を確保する対策を開始。JAにしようわ、(株)泉州アグリとの産地間連携により一定程度の人材を確保することは出来たが、年々加速化する人口減少に伴い、農繁期の人材は生産者の希望人数を満たしておらず、更なる拡充および複数のルート開拓による新たなチャンネルを創出し、労働力確保に取り組んでいく必要がある。

## 事業実施主体構成員

【小清水農業振興公社】 構成団体：JAこしみず、小清水町、(株)山口油屋福太郎、(株)トムケアジャパン

<連携機関> 1. JAにしようわ(愛媛県) 2. 泉州アグリ(大阪府)※農業生産法人 3. トムケアジャパン(東京都)※パン製造販売  
4. YUIME(東京都)※人材派遣 5. 北農5連(北海道)※JAグループ 6. エヌ(長崎県)※人材派遣

## 実績値(目標値)

目標年令和6年度の労働需要に対し、現状(R3)の労働力では充足率が57.1%。本事業によって新たなチャンネルでルートを開拓することによって、目標年には労働力充足率を79.2%とする。

【令和6年2月途中経過】

<労働力需要及び比率>

- ◇令和6年度年間労働需要7,288人工(目標年)
- 令和3年度年間供給実績4,160人工(57.1%)
- 令和4年度年間供給実績4,613人工(63.3%)※令和3年より6.2%上昇
- ◇令和5年度年間供給実績5,808人工(79.7%)※令和4年より16.4%上昇

<他産地・他産業との連携による労働力確保(既存グレードアップ)>

- ①JAにしようわと新たに特定技能リレー「二居住体制」を開始⇒R5.4月特定技能外国人5名受入開始 ⇒R5.11月16日～JAにしようわ受入(実績)※3月29日迄
- ②JAにしようわと新たに農業青年による農作業支援を実施⇒にしようわ農業青年R4.9月：3名(実績) ⇒R5.9月：4名(R4実績比133%)
- ③JAにしようわ支援員受入⇒R4.4～5月：1名(実績) ⇒R5.4～5月：1名(R4実績比100%)
- ④泉州アグリスタッフ受入⇒R4.4～5月：3名(実績) ⇒R5.4～5月：1名(実績) ⇒(R6目標値：3名)

<新たな産地間連携>

- ①トムケアジャパン⇒R4.9～12月：1名(実績) ⇒R5.4～11月：1名(R4実績比100%)
- ②YUIME(株)・(株)エヌ⇒R4.8～10月：6名(実績) ⇒R5.3～5月：2名、5～10月：5名(実績) ⇒(R6目標値：10名)

## 令和5年度取組み内容

### 今年度の取組み内容

#### ア 労働力の需給状況の把握（地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等）

- ①アンケート実施期間：12/8～12/15
  - ②調査対象者：136戸（農作業受委託契約締結者）
  - ③調査内容 ※回答数：112戸（回答率：82.3%）
- (2)調査事項
- ①事業継続希望 ○希望する97% ○希望しない3%
  - ②作業依頼の増減 ○現状維持69% ○増加したい24% ○減少したい0% ○未回答7%
  - ③作業満足度 ○大変満足23%○満足36%○普通20%○やや不満・不満2%○未回答20%
  - ④産地間連携短期労働者の受入れについて  
○人員を増やしてほしい51% ○どちらでも良い42% ○未回答7%
  - ⑤外国人材の受入れについて  
○積極的に受入れたい57%○どちらでも良い38%○外国人不要0%○未回答5%
  - ⑥作業別希望割合（上位3つ）  
1除草作業35% 2てん菜移植・補植25% 3てん菜播種作業11%
  - ⑦月別希望人数（農作業のみ）  
○2月21人工 3月215人工 4月214人工 5月434人工 6月127人工 7月335人工 8月197人工 9月234人工 10月55人工 11月55人工  
合計1,887人工（選別作業等含まない）

#### イ 産地内での労働力確保・育成

- <ホームページの開設>
- ・令和4年12月から(株)小清水農業振興公社のHPを開設。  
HP内に募集ページを作成し、短期・長期の農作業スタッフの募集を随時行っている。
- <就農フェア出展>
- ①開催日時：令和6年1月
  - ②開催場所：東京都
  - ③面談者：9名
- ・作業内容の説明や農業体験の紹介を行った。

今年度の取組み内容

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

<他産地と連携した労働力確保>

①JAにしようわ（愛媛）

- ・4月下旬～5月下旬（1カ月）の播種・移植時期に連携し、1名の受入れを実施。
- ・9月にJAにしようわ農業青年による農作業支援の実施。（馬鈴薯・南瓜・ブロッコリー）
- ・11月～3月の農閑期に小清水から延べ10名が農作業支援を実施。
- ・特定技能外国人材の産地間リレー「二居住体制」を開始。（R5.4月～小清水で5名受入開始⇒R5.11月16日～JAにしようわ受入(実績)※3月29日迄）

②泉州アグリ（大阪）

- ・4月下旬～5月下旬（1カ月）の播種・移植時期に連携し、1名の受入れを実施。

③トムケアジャパン（東京）

- ・4月から11月まで1名を受入れ農作業および加工品製造に従事。

④(株)エヌ（長崎）

- ・3月上旬～5月下旬の播種・移植時期に特定技能外国人材2名の受入れ。
- ・4月下旬～10月下旬まで受入れた特定技能外国人5名を直接雇用に取り替え、JAみしようわとの「産地間リレー」人材として11月よりJAにしようわ管内で作業。

⑤フロムファーム（和歌山）

- ・4～5月および8～10月の人材確保に向け、農繁期の異なる新たな産地から短期アルバイトを呼び込むための連携協議および体制構築を開始。

ア 募集する労働者の居住地（出発地）：愛媛・大阪・東京・和歌山等

イ 労働場所（目的地）：北海道小清水町

ウ 宿泊場所：アグリハートセンター（小清水町が整備した宿泊施設で事業実施主体が管理運営）

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

オ 農業の「働き方改革」への取組

<小清水町内の生産者を対象とした勉強会>

①開催日時：令和6年1月

②出席者：16名（農業者）4名（JA関係者）

③開催内容

- (1)作業時の留意点
- (2)安全作業の注意喚起
- (3)労務管理のポイント

## 本事業取組みにおける成果項目

- ・本事業の活用により、令和4年度以降、既存の2つの産地のほか、新たに2つの産地から人材を受入れ、また、特定技能外国人材の活用により安定した人材確保に繋がる取組みとなった。
- ・外国人材の就業をはじめ他産地との連携は、労働力だけではなくお互いの産地を定住人口を増加させることで経済活動の活性化を図り、行き来することで関係人口の増加にも繋がり、町の活性化に寄与している。

## 次年度以降の取組み内容

- ・小清水の農業がこれからも力強く農業生産を継続していくためには、現状および将来重篤化する労働力不足を解決しなければならず、小清水農業振興公社が中心となり、JAや小清水町、関連機関と一丸となって、早急に更なる対策を打っていく必要がある。
- ・本事業によってこれまで結びついた様々な連携先と取り組みの継続および新たに得た知見を活かし、次年度以降も人材受入れルートを構築し、複数のチャンネルを作ることで農業振興とともに労働力確保に取り組む。